

Importance of the spinopelvic factors on the pelvic inclination from standing to sitting before total hip arthroplasty

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2018-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 越智, 宏徳 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002176

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1981 号

Importance of the spinopelvic factors on the pelvic inclination from standing to sitting before total hip arthroplasty

(人工股関節全置換術前の立位から坐位の姿勢変化に伴う骨盤傾斜における脊椎骨盤因子の重要性)

越智 宏徳 (おち ひろのり)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、股関節疾患に対して人工股関節全置換術を行う際に重要となる骨盤傾斜に関して姿勢変化に伴う骨盤傾斜変化に腰椎柔軟性が関連していることを初めて明らかにした臨床的に意義のある論文である。

人工股関節全置換術を行う際の臼蓋カップの不良な設置位置は重大な術後合併症である脱臼の原因になる。臼蓋カップの設置角度である前方開角は骨盤傾斜に影響され、脱臼の原因であるインピンジメントを引き起こす要因になる。本論文では人工股関節全置換術を施行した74人の術前に全脊椎骨盤矢状面の単純X線を立位と坐位の姿勢で撮影し、脊椎骨盤矢状面パラメーターであるSagittal vertical axis、Thoracic kyphosis angle、Lumbar lordosis angle、Sacral slope、Pelvic tilt、Pelvic incidenceを評価している。結果は立位から坐位の姿勢変化により有意に腰椎の前弯角であるLumbar lordosis angleの減少と骨盤傾斜の指標であるSacral slopeの減少、Pelvic tiltの増加を認めた。立位から坐位の姿勢変化により腰椎の前弯が減少し骨盤は後傾したことになる。骨盤傾斜変化量と脊椎骨盤矢状面パラメーターとの関係では骨盤傾斜変化量と腰椎変化量に強い相関を認めた。立位から坐位の骨盤傾斜や腰椎柔軟性を考慮して各々に適した前方開角に臼蓋カップを設置することが重要である。人工股関節全置換術の術前に立位と坐位の姿勢による動態的評価を行うことは術後脱臼の予防や術後アウトカム改善に非常に有用であることが示唆された。

よって、本論文は博士(医学)の学位を授与するに値するものと判定した。